

## 1. 研修目的

初期研修の2年間で培った知識と技術と、新たに習得する神経学を用いて、神経症状、神経疾患に対していろいろな視点から評価、検討できるようにする。

## 2. 目標

### (1) 一般目標 GIO

神経疾患の適切かつ迅速な診療を行うために、神経疾患の病態生理を理解し、確実な診断ならびにEBMに基づいた治療を修得する。

### (2) 行動目標 SBOs

1. 適切な病歴の聴取ができる
2. 神経学的診察が正確に行える
3. 神経学的所見の解釈, 局所診断, 質的診断ができる
4. 主要な神経疾患の特徴, 内容, 病態生理を説明できる
5. 鑑別診断, 確定診断のための検査計画を立てることができる
6. 主要な神経疾患の治療ができる
7. 神経救急疾患・病態への対応ができる
8. up to date な知識, 技能の取得できる
9. 学会, 研修会, 発表会などに積極的に参加する
10. 介護保険, 身障障害者, 特定疾患などの社会資源を活用できる
11. ナース対象の神経内科レクチャーや初期研修医への屋根瓦指導を積極的に行える。
12. 神経内科専門医が目標であるが, 総合診療科的な幅広い内科医としての深さを身につける。
13. 医療安全, 感染対策, 医療メディエーション, クリニカルパスなどの横断的な事項に積極的に関与できる。
14. 医師としてのプロフェッショナルリズム, とくにリフレクション(振り返り)を実践できる。

## 3. 方略

1. 主体はOJT(On the Job Training)である
2. 初期研修医への教育, ナースへの教育を積極的に行う
3. 後期研修医のみならず, 全スタッフがリフレクション(振り返り)を実践する

## 4. 週間予定表

	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜
午前	・ 外来 ・ 病棟回診	モーニングカンファランス ・ 病棟回診	・ 外来 ・ 病棟回診	・ 外来 ・ 病棟回診	リハビリカンファランス ・ 回診
午後	・ 病棟回診 ・ 画像カンファランス ・ 抄読会	・ 病棟回診 ・ 電気生理学的検査	・ 血管造影検査 ・ 病棟カンファランス兼新入院症例カンファランス	・ 病棟回診	・ 病棟回診 ・ 症例カンファランス

## 5. 研修内容

以下の技術を習得し、初期研修で得た技術と組み合わせ、全身疾患としての神経疾患の評価ができるようにする。

### 《検査業務》

髄液検査、脳波・電気生理、頸部超音波検査、高次脳機能検査、自律神経検査、神経放射線検査、嚥下造影、脳血管造影、神経筋生検など。

以下のカンファレンスを通し、神経疾患の考え方等を身につける。

カンファレンス

新入院症例提示、症例検討会、死亡症例検討会、総回診、病棟カンファレンス、リハビリテーションカンファレンス、CPC、抄読会、岩手県立病院医学会あるいは岩手医大主催の検討会など。

## 6. 神経内科専門医を目指す後期研修の3年間

<b>1年目</b>
指導医・上級医による指導を受けながら、主治医として外来・入院診療の研鑽を積む。神経内科症例検討会を通じて神経内科の考え方や知識を学び、必要な診断方法や治療方針を習得していく。また、主治医ではなくとも、カンファレンスや総回診を通じて幅広い疾患に対する理解と経験を深める。検査業務については、指導の下に適切に施行出来るようにする。救急外来では、神経内科救急に対する処置について研鑽を積む。外来では、退院後の患者の治療継続を行い、疾患の縦断像を把握出来るよう努める。指導医や上級医の指導の下、各種書類を適切に記載する。医療安全・医療倫理の講演会には積極的に出席する。
<b>2年目</b>
引き続き、指導医・上級医による指導を受けながら、主治医として外来・入院診療の研鑽を積む。神経内科症例検討会を通じて神経内科の考え方や知識を深め、診断方法や治療方針を習熟していく。カンファレンスや総回診を通じて幅広い疾患に対する理解と経験をさらに深める。基本的な疾患では適宜指導医・上級医に相談しながら一人で診療可能なレベル到達を目指す。検査業務についても基本的な内容は一人で施行出来ることを目標とする。救急外来では、神経内科救急に対する経験を深める。積極的に外来業務を行い、疾患の幅広い知識を身につけるとともに、引き続き疾患の縦断像を把握出来るよう努める。指導医や上級医の指導の下、各種書類を適切に記載する。医療安全・医療倫理の講演会には積極的に出席する。
<b>3年目</b>
主治医として外来・入院患者を受け持ちながら各種検査を行うとともに、臨床研修医の上級医としての指導も行なう。教育関連病院との連携を通じて在宅の状況を把握出来るように努め、全人的な診療の中での神経内科診療の習得を目指す。神経学会の定めるミニマムリクアイアメントを適切に達成出来るよう、指導医と相談し、不足する研修内容は関連病院、学会ハンズオンセミナー、各種学習会などを通じて習得出来るよう研鑽に励む。

## 7. 2015年度実績

入院	7870人	ボトックス	33件
外来	5745人	MRI	1382件
新患	666人	CT	1279件
tPA	4件		

## 8. 施設認定状況、指導責任者・研修指導医

施設状況: 准教育施設

指導医名	役職	卒業年	主な資格など	臨床研修指導医
川守田 厚 (かわもりたあつし)	第1神経内科長兼地域医療科長兼地域福祉連携室長	1986年	日本神経学会認定医・専門医・指導医 日本内科学会認定内科医・指導医 日本脳卒中学会専門医 日本リハビリテーション医学会認定医、医学博士	○
佐々木昭人 (ささきあきひと)	第2神経内科長	1993年	日本医師会認定産業医 日本医師会認定健康スポーツ医、医学博士	○